

全国雪対策連絡協議会 秋の要望活動の報告

公益社団法人 雪センター

雪対策協議会とは

「全国雪対策連絡協議会」は、雪センターの200を超える市町村会員からなる組織で、その下には13の「道県の協議会」が設置されております。

各道県の協議会は日頃から「会員相互の情報交換・意見交換」を行っており、また雪センターとしては各市町村会員へ適宜「情報提供」を行っております。

要望書の作成

各道県の協議会の活動を通じて出された市町村の意見・要望事項は、各道県の協議会を通じて雪センターに提出され、雪センターではこれらを集約して、全国雪対策協議会の「要望書案」を作成し、さらに各道県協議会を通じて市町村会員に戻して御意見を伺うと共に、要望先である国の関係機関との調整、情報交換を行っております。このような経緯を経て、全国雪対策連絡協議会の「要望書」が市町村会員の総意として確定致します。

今回の要望書の作成に当たっては、今までの要望事項を整理すると共に、多数の市町村からの要望を入念に調整し、要望内容の明確化をはかり、新たな事項も追加しました。

要望活動

この要望書による「要望活動」は、例年7月の雪対策連絡協議会の総会後と、秋に行われております。

本年度は、7月20日の総会後に要望活動を行ったところでありますが、秋の要望活動として10月31日に実施致しました。

要望活動には36の市町村が参加され、その内市町村長の参加者数は、9名となりました。

多数の市町村の要望を結集した要望書をもって、多数の参加者が要望活動を行うということで、要望先である国の機関におかれては、十分な時間をとって対応して頂き、要望の趣旨を伝え、御理解をして頂き、大きな成果を上げる事が出来ました。これが今後の「予算の拡大」、「新たな施策、制度の創設」にもつながって行く事と思われまます。

以下、その内容を報告致します。



要望書 表紙